

VOICE

志

2011年スローガン
唯一無二の存在
を目指して



INDEX

2011年度理事長所信	1P
2011年度委員長基本方針	2P~3P
2011年度会員紹介	3P~4P
永守氏 & 理事長対談	5P~8P
2010年度活動報告	9P~10P

2011

IIZUKA

Junior Chamber NEWS vol.56



唯一無二の存在
を目指して



社団法人飯塚青年会議所
第58代理事長

室井 秀行

本年度、社団法人飯塚青年会議所(以下飯塚JC)は創立58年目を迎えます。この58年間という時間の中で、日本は大きく変わりました。経済は飛躍的に発展し、生活も豊かになりました。しかし人々の意識は経済の発展とは反比例に低下していったように思われます。そのことは青年会議所(以下JC)においても例外ではありません。

飯塚JCは自分たちの地域を自分たちの手でよりよくしたいという精神を持った35名の仲間が集まり1953年に創設されました。その頃のJCは「志」の集団で、「個人の修練、社会への奉仕、世界との友情」という柱を皆がしっかりと心底に持ち、一人ひとりが「何のために」JC運動を行っているかが明確でした。しかし今どれだけの人が「志」を持って活動しているのでしょうか。「こんな時代にJCをやっている場合か？」等、JCに対しては様々な声があるかもしれません。しかしこんな時代だからこそ本当のJCの価値を確認すべきだと思います。今の時代に、今のやり方で、今しかできないJCが担うべきものがあるはずで、JCはただ楽しいだけの関係を築く場所ではありません。地域の皆様がどうすれば喜んで下さるのか、どうすれば幸せになり元気な笑顔で溢れるのかを追い求め続け、地域の皆様に愛され必要とされる存在でなければなりません。その為にはもう一度JCが創設された頃の精神を再確認し、皆が高い「志」を持って前に進むべきです。そうすれば必ず地域に良い影響を与えられ、自然に唯一無二の存在となり、今以上に必要とされる団体になると確信致します。

◇青年経済人としての意識の向上と人材の育成◇

人は人の中で学び、人に磨かれ成長します。苦楽を共にして初めて、人はかけがえのない人生の師・仲間を手に入れる事が出来るのです。私もJCに入会し今年で13年目になります。入会当初は挨拶や礼儀はもちろんのこと人との接し方すら無知でした。しかしJC運動を通し修練・奉仕・友情のもと、逃げずに磨けの精神で様々な大切なことを先輩方や仲間達から学び、青年経済人としての礎を築かせて頂きました。社会の原点は人であり、人の原動力は心から信頼しあえる仲間の存在だと思います。かけがえのない仲間たち。それこそがJCの誇りであり、私達の財産だと確信します。

また、JCは学びの場です。JC運動を通してメンバー全員が切磋琢磨し、信頼しあえる関係を築き、共に成長し、同志となり、JC内だけではなく社会や家庭においても必要とされる人材となり、たくさんの人たちにJCに入会して学びたいと思われるような団体にしていかなければなりません。その為には一人ひとりの意識が何よりも大切です。メンバー一人ひとりが「人間力の向上」を掲げ、現在の社会情勢に立ち向かう青年経済人としての質の向上、またこれからの飯塚JCを担うであろう会員の意識の向上につとめ活動していきます。

◇情報収集と行政・地域と連携の徹底、青少年の育成◇

外部からのJCに対する期待が今ほど実質的になってきている時代はありません。行政が市民に近づこうとしている今、行政と地

域との架け橋となる最前線に居るのがJCだと思います。行政と地域との深い結びつきができてこそ、「明るく豊かな社会」が実現するのです。その為にはまず必要なのが情報です。地域にどのような問題があるのか、今何を必要としているのかを知らなければなりません。知るによりJCが本当にやるべきことが明確になります。本年度は情報収集に力を入れ、2市1町との更なる連帯強化を計り、今地域の皆様が本当に必要としている事を学び、共に考え効果的な事業を行っていきます。

効果的な事業とはJCが一方的に外に投げかけるのではなく、関わり方や共通性を見出し、行政、団体、企業、人を巻き込み地域が一体となり、明るい未来へ向けて進むべき道筋を築いていくことです。長い年月がかかるとは思いますが、活動基盤を固め、信じて地道に根気強く活動していけば、いつの日かJCの蒔いた種が花開くと確信致します。そしてその築いた道筋を後世へ繋げていくのは、次世代を担う子ども達です。子ども達を育てることこそ明るい未来を築くことです。地域の未来や夢が希望に満ち溢れる為に、子ども達の育成にも努力してまいります。また、マスコミ等とも連帯強化を計り飯塚JCの事業等を今以上に外へ発信し、一層地域との密着を目指します。

地域に愛され必要とされる唯一無二の存在であること、それこそがJCの存在意義だと考えます。

◇おわりに◇

いつの時代も世の中をよりよく変えるのは、人の熱い「情熱」であり「志」です。こんな時代だからこそ立ち止まるのではなく、高い「志」を持って前に進んで行かなければならないのです。過去と現在、現在と未来とを繋ぎ、明るい明日への架け橋となることが今を生きる私達に課せられた使命です。「明るく豊かな社会」の実現に向けて「一灯照隅 万灯照国」の精神で、一人ひとりが今何をやるのかを考え、個性を発揮し、得意分野でそれぞれがリーダーシップをとり、修練・奉仕・友情のもと熱い「情熱」と高い「志」を持って、JCが地域の未来を照らす希望の一灯になることを目指し全力で邁進してまいります。

【基本方針】

- 一、会員一人ひとりの人材育成(各委員会)
- 一、情報発信・収集 VOICE・ホームページ作成、管理
- 一、地域・人・2市1町(行政)との連携した効果的事業
- 一、公益社団法人格取得の是非の決定
- 一、飯塚JC存続の危機意識を持った会員拡大
- 一、ローカルマニフェスト検証の実施
- 一、台東国際青年商会との交流・情報交換
- 一、会員相互の交流を深め参加意識の高まる例会運営

まちづくり委員会

委員長 高崎 英徳



今、この大不況と言われる中、(社)飯塚青年会議所は、この地域をより良くする為に率先し、行動してまいりました。今後もこの地域が発展していく為には、何が必要か何が足りないのかを考え、いち早く行動していくべきではないでしょうか。

この地域は、過去栄えた時代の面影もうすれ、外部からの人の出入りが少ないのが現状です。更には、この地域から出て行った人達も戻ってこないという現状もあります。人が集まり、帰りたくなるまち、住みたくなるまちにする為には、この地域に必要とされるまちづくり事業を行い、活力あるまちにする必要があると考えます。そこで本年度、まちづくり委員会では行政・人・地域の方々・メンバーと共に、まずはこの地域に何が一番必要で、どうしたらいいのかを共に考え、考えた内容を達成すべく行動し、活力ある明るいまちづくりを目指した事業を企画運営します。みんなで一つの事業に取り組み、共に考え、共に汗を流して、達成した時の感動をみんなで分かち合う事により、今後のまちづくりの活力になると確信します。さらには、会員一人ひとりの人材育成にもつながると考えます。

本年度、私たちまちづくり委員会はJ C三信条のもと、高い「志」をもち、まちづくりを通して、地域の方々が必要とされる団体になるようJ C運動に一丸となって取り組み、地域と行政の架け橋となるべく、明るい豊かな社会を目指し、一年間全力で邁進してまいります。また、三人行事の一つである忘年会を企画立案し運営していきます。今まで活躍された卒業生の方々的心に残るような卒業式にします。

会員拡大アカデミー委員会

委員長 外山 武志



本年度、(社)飯塚青年会議所(以下飯塚J C)は16人のメンバーが卒業を迎えます。

そこで新たな人材の確保は必要不可欠な優先事項と捉えております。

当委員会では現役、諸先輩方も含めこれまでのJ C運動で培われた幅広いネットワークを駆使して、「志」の高い人材の発掘に当たって行く所存です。

飯塚J Cが今後も幅広い事業を展開する時、必ず多くの人員が必要となってきます。また、新たな人材が加わることでこれまでにない発想を得られる可能性も大いに期待できます。

飯塚J C存続の危機意識を持った会員拡大に委員会メンバー全員で一丸となって取り組んで参ります。

入会された後も、近い将来この飯塚J Cの中心的役割を担っていただく為、修練・奉仕・友情のもと全員が高い志を持って活動して参ります。J C運動を通してたくさんの貴重な経験をしてもらい、メンバーと切磋琢磨し、委員会メンバー全員で成長していく所存です。

新入会員の方には、諸先輩方やこの地域の方々とも多くの交流を持っていただき、広い視野を持った人間へと成長していくことで、仕事や家庭、J C運動に活かしていけると思います。

また、近い将来たくさんの難問や高い壁に直面することがあると思います。時には一人では超えられない壁かもしれません。しかし、入会して知り合ったJ Cのメンバーと信頼関係で結ばれた固い絆があれば、互いに助け合い協力し合いながら乗り越えていけると確信します。

アカデミー事業においても、メンバーと切磋琢磨し互いに協力し合い、助け合い、信頼関係を結んでいながら活動していきます。そして共に笑い、泣いて、熱い「情熱」と高い「志」をもって達成感を味わえる事業を企画、運営致します。それが今後の活動に必ず活かせると思います。

1年間の活動が終わる時、J Cに入会してよかったと言える委員会を築き上げていきます。

情報発信委員会

委員長 寺濱 剛史



長引く不況やデフレ、政権交代や短命の内閣などさまざまな問題を抱える現在の日本の中、我々国民においても、生活の質の向上とはほど遠く、将来に大きな不安を抱えている人が多いのではないのでしょうか。

インターネットの普及により、情報収集や発信は個人でも容易に行えるようになりましたが、最も重要な人と人のコミュニケーションが減少している気がします。私たちが、地域の現状に疑問を持ち何か動こうとする時、個人の声を行政に届ける事は難しく、反対に行政の声も個々に的確に伝わりにくいのが現状です。そんな今だからこそ、私たち(社)飯塚青年会議所(以下、飯塚J C)がこの地域のリーダーシップを執り市民と行政の間に立ち、今以上に住みよいまち、人の集まるまちを目的としたより効果的な事業を行っていく必要があると思います。

そこで当委員会では、行政との連帯強化に努め、この地域で何が必要なのか何が足りないのかを一緒に考え、飯塚J Cが行う全事業が「明るい豊かな社会」創りをきっかけとなるように各委員会と情報交換を行っていきます。

過去、飯塚J Cが行った事業で、行政と市民との架け橋として行った事業でもっとも分かりやすいのが、昨年2市1町のローカルマニフェスト公開討論会ではないかと思えます。各首長が選任されて1年が経過した今年、様々な声を集約しローカルマニフェスト検証へと結びつけていきたいと思えます。

2011年度、第1回目の事業となる新春祝賀会では飯塚J Cの進むべき道や在り方を、地域の方々や諸先輩方、来訪J Cの方々に発表する良い機会となるように企画・立案しメンバー全員で一丸となり運営に努めます。

更に、広報面においては、私たち飯塚J Cから発信するだけではなく、地域の方々の声を反映出来る様なホームページ制作を行い、一人でも多くの方の生活に役立てるような管理をします。また、VOICE作成にあたっては地域参加型の広報紙に出来るように努めたいと思えます。

最後に、この地域で生まれ育った私たち飯塚J Cのメンバーが一丸となり、高い「志」を持ち、この地域で唯一無二の存在になれるように邁進してまいります。

山笠委員会

委員長 久家 渉



私たちの地域には、様々なイベントがあり、それらを通じて地域の方々には心や身体をリフレッシュさせ、新たな明日への活力としております。そのひとつに「市民祭飯塚祇園山笠」があります。昨年、復活40周年の節目を迎え、新たな山笠を期待する声も聞こえております。

一方、昨今の社会情勢の変化により、若者は山笠への関心が薄れ、後世へ伝えることが困難になりつつあります。そこで、私たち山笠委員会は山笠を飯塚市だけではなく、嘉麻市、桂川町へも広めて参ります。その為には、行政主管のイベントを調べ、情報収集を行います。そして、イベントへ積極的に参加し、効果的な山笠の広報活動に努めます。それによって、より多くの方々の関心に繋がると確信致します。また、本年度も飯塚山笠振興会へ出向し、活発な意見を交換し合い、新たな運営を企画して参ります。

また、姉妹提携を結んでおります台東国際青年商会との国際交流を事業を通じて深めます。その中で、情報交換を行い、伝統や文化の違いについて話し合うことで、飯塚への関心を持ってもらい、山笠の認知を高めて参ります。

一年を通じてこれらの事業へ高い「志」を持って積極的に参加・活動することで、そこで得た学びや気付きによって、山笠委員会メンバーがJ C運動の行動綱領であるJ C三信条、修練・奉仕・友情をお互いに再確認し合い邁進して参ります。

青少年育成委員会

委員長 深田 陵市



近年、次世代を担う子どもたちを取り巻く環境は、様々な犯罪やモラルの低下などで、明るい豊かな社会の実現には程遠いものとなっています。

このような社会だと、誰を信じ、誰と手を取り合えばいいのか、どのようにすれば、よりよい人間関係を築いていくことができるのか、疑問に思ったり、不安に感じたりしている人も多いはず。人と人の繋がりがや深めるといったことに警戒心さえ抱いているように思えます。また、我々大人のモラルの低下は、子どもたちを失望させているとも考えられます。

人と人とは信頼し、協力し合うなかで、よりよい人間関係を築き、大人は子どもの見本となり、大きな愛情を持って接し、成長を見守り、支えとなっていくべきではないのでしょうか。

そこで、当委員会では、本来あるべき社会の在り方を行政と地域の意見を取り入れながら、次世代を担う子どもたちが、安心して人と人の絆を深め、愛情溢れる人間関係を築いていき、我々大人は、子どもたちの見本となり、必要とされる唯一無二の存在となること、明るい豊かな社会の実現への第一歩になると確信し、最善を尽くしていきます。

また当委員会のもうひとつの担いであり、第58周年創立記念におきましては、諸先輩方が歩んでこられた(社)飯塚青年会議所の道筋を辿り、会員一人ひとりが「志」を再確認し、諸先輩方と「情熱」を分かち合える場となるように企画・運営を行います。

例会委員会

委員長 湊谷 一弥



「志」高く魅力ある人間へ！
 (社)飯塚青年会議所内に於ける例会とは、私達の住む地域へ向けたJC運動をする上で基本となるものです。しかしながら、その基本となるべき場に参加しなければ、明るく豊かな社会を築き上げようとする「志」を高めることもできないのではないかと考えます。

そこで、私たち例会委員会が今年度やるべきことは、メンバーが地域社会の活性化の原動力として活躍するため、人間力を身に付けられる学びの場を作ること。JC運動が、円滑に進むためのメンバー同士の意見交換や情報発信の場を作ることだと思います。

毎月行なう例会の中で経験出来る楽しさを、LOMメンバーの皆さんに感じてもらい、魅力溢れる人間(ひと)としての人間力を身に付け、青年経済人としての模範となるべく知識や感性を磨くことにより、メンバー全員がこの地域の活性化へ向け、高い「志」と誇りを持ち、地域社会に必要とされる存在となり、また将来この地域を担う若者達が憧れる魅力ある存在になることで、よりよいJC運動、一人ひとりの事業活動、家庭での生活が、今以上笑顔と活気に溢れるものになるのではないのでしょうか。

地域のために運動し活躍する人間(ひと)として、笑顔と活気が溢れるメンバーが、一人でも多く集まるLOMになることで、一灯照隅の想いが万灯照国へと進む原動力になると確信します。そのために今年度例会委員会メンバーは、全員で知恵を出し合い、厳粛な式典はもとより魅力あるアワー内容の例会運営を行います。また、例会への積極的な参加を促すことに努めるため、各委員長との連絡を密にとるとともに、年間を通じた出席率の向上を図ります。

総務委員会

委員長 福澤 慶之



今年で(社)飯塚青年会議所(以下飯塚JC)は創立58周年を迎えます。高い「志」を持った先輩達とその長い年月を通して、まちづくり・ひとづくりといった地域の方々と共に事業を行ってまいりましたが、本年飯塚JCは大きなターニングポイントを迎えようとしています。

2008年12月に施行された公益法人制度改革3法により、2013年11月末までに、公益社団法人・一般社団法人のどちらかを選択しなければなりません。残された時間は後3年、その間に法人格の選択、それに伴う定款・運営規定などの制度改革をしていかなければ、飯塚JCが解散し、今まで行ってきたひとづくり・まちづくりといったさまざまな事業ができなくなるだけでなく、地域社会への影響、なにより多くの先輩達が築き上げてきた青年会議所の歴史に終止符を打たざるを得ない状況になるかもしれません。

そこで当委員会では、新法にのっとり、定款をゼロベースから作成し、一般社団法人・公益社団法人のどちらを選択するかなどの重大な問題に関しては、勉強会・意見交換会を設け、公益社団法人格取得の是非、本当に私たちは公益社団法人格が必要かどうかをメンバー全員で考え、これから先の方向性を決めていかなければなりません。また、総会運営・管理・総務諸業務に関しては、スムーズな運営を行いかつ確実に実施致します。

最後に継続して行っている灯明においては、多くの人たちが参加されています。本年は、地域の人たちや団体・企業など多くの人たちと協働で行うことで、そこから生まれる協調性・連帯感はJC運動だけでなくメンバー一人ひとりの「人間力の向上」に繋がるものと確信いたします。

JCI 2011年度 会員紹介

 理事長 室井 秀行 (有)室井自動車工業	 直前理事長 福永 隆一 (有)花のフクナガ	 副理事長 久保 頼貴 久保自動車(有)	 副理事長 坂平 順子 新進工業(有)	 副理事長 桑野 慎吾 (有)桑野電気工事
 専務理事 森 浩昭 (株)玉置	 常任理事 江藤 晃輔 (株)エトウ時計店	 事務局長 藤原 昌直 (有)高橋園芸	 事務局次長 多賀谷 勇気 (株)イオス	 監事 大里 至 大里酒造(株)
 監事 玉村 浩一 (有)コムレイド	 監事 林 孝則 ほわいと歯科	 まちづくり委員会 委員長 高崎 英徳 (有)高崎クレーン	 まちづくり委員会 副委員長 渡部 雅文 居酒屋 和"KOKORO"	 まちづくり委員会 江藤 裕仁 (株)トーン
 まちづくり委員会 榎木 雅人 (株)サンテック	 まちづくり委員会 小山 寛 (株)小山産業	 まちづくり委員会 神田 顕 (株)南風堂	 まちづくり委員会 小玉 哲嗣 飯塚信用金庫(宮田支店)	 まちづくり委員会 小林 雄二 (株)ばっちゃんじっちゃん
 まちづくり委員会 齊藤 壮史 斉藤造園	 まちづくり委員会 武本 一利 (株)C.F.C.company	 まちづくり委員会 堀池 豊 (株)麻生情報システム	 まちづくり委員会 村岡 智弘 (有)村岡食品	 会員拡大アカデミー委員会 委員長 外山 武志 (株)KMG
 会員拡大アカデミー委員会 副委員長 川波 俊二 (株)トラベルウイズ	 会員拡大アカデミー委員会 有光 弘好 皇祖神社	 会員拡大アカデミー委員会 國武 裕仁 (有)システムハウジングタイセイ	 会員拡大アカデミー委員会 久保井 英樹 (株)クボイ	 会員拡大アカデミー委員会 西 竜太郎 (株)西組

 情報発信委員会 委員長 寺濱剛史 (株)エス・シー・エム	 情報発信委員会 副委員長 三木祐太 (株)デュー・エステート	 情報発信委員会 石原由香 (有)Q&A	 情報発信委員会 大塚正博 三信ビル管理(資)	 情報発信委員会 國米征吾 (有)インテリアコクマイ
 情報発信委員会 重松将貴 飯塚ダイハツ販売(資)	 情報発信委員会 下川哲也 (有)ぱっぷDining	 情報発信委員会 塚本大 (株)中央産業	 情報発信委員会 福澤文聰 銀翼タクシー(株)	 情報発信委員会 藤木秀憲 フジキ印刷(株)
 山笠委員会 委員長 久家涉 (株)三協	 山笠委員会 副委員長 小林隆一 (資)小林硝子店	 山笠委員会 今吉義之 (株)アイジャパン	 山笠委員会 片平秀一 (株)三豊	 山笠委員会 古賀浩一 (有)セントコーポレーション
 山笠委員会 椿重之 (株)中本不動産	 山笠委員会 畑中規一 (有)荒木食品産業	 山笠委員会 松本勝也 (有)松本食品	 山笠委員会 山本敬介 やまもと寿司	 青少年育成委員会 委員長 深田陵市 (有)南星観光
 青少年育成委員会 副委員長 赤坂昌紀 (株)線範囲	 青少年育成委員会 今井光 ハート歯科クリニックいまい	 青少年育成委員会 岩本達也 (株)イワキン工業	 青少年育成委員会 岸田貴靖 三協技建(株)	 青少年育成委員会 清水幸浩 (株)瑞建工務店
 青少年育成委員会 田代陽子 (株)福興カホスイングリッド	 青少年育成委員会 堤考史 (株)セレモニー築地舞臺	 青少年育成委員会 野上健一 ティープ	 青少年育成委員会 松岡伸治 (株)デンシン	 青少年育成委員会 山喜多洋志 (有)イツカベンディング
 青少年育成委員会 山室透 親和塗料	 例会委員会 委員長 湊谷一弥 (有)酒のみなとや	 例会委員会 副委員長 坂口天志 (株)飯塚電設	 例会委員会 今泉涉 (有)双葉商会	 例会委員会 梶原雅彰 ミヤビ総合防水
 例会委員会 重清康 (株)昭和管工	 例会委員会 新川修 新川工業(株)	 例会委員会 谷口正知 (株)チクホーシーリング	 例会委員会 戸田徹 カーコンビニ倶楽部 沼川店	 例会委員会 野中重司 光代自動車整備工場
 例会委員会 淵上拓也 バームハウス	 例会委員会 古田明裕 (有)筑豊美装	 総務委員会 委員長 福澤慶之 上野橋貨物自動車運送(株)	 総務委員会 副委員長 野上智司 (株)のがみ組	 総務委員会 有馬武文 (有)有馬クレーン
 総務委員会 岡部稔 有限会社 初音	 総務委員会 岡村智之 近畿大学	 総務委員会 狩野喜彰 (有)かの住建	 総務委員会 木下太 (株)東京食品	 総務委員会 木村幸道 瀬野保育園
 総務委員会 多田勉 (株)多田組	 総務委員会 長岡敦史 (株)ジェイ・イー	 総務委員会 中村和也 (株)中村建設		

IIZUKA
Junior Chamber International
MEMBER™

2010年度 社団法人 飯塚青年会議所

(社)飯塚青年会議所 第57代理事長

日本電産株式会社 社長

福永隆一 × 永守重信

ふくなが りゅういち ながもり しげのぶ

福永理事長 (以下福永) 現在、飯塚青年会議所では、91名のメンバーがいて、10の委員会に分かれてまちづくり活動を行っていますが、その中で一人一人の“やる気”が重要になってきますが、その“やる気”を引き出すためにはどのような事が大事でしょうか。

永守社長 (以下永守) 様々な業種のメンバーが集まって活動していると思いますが、“やる気”を無くしてしまう要因として、失敗した事による自信の喪失や、色々な弊害から来る“ストレス”があります。

そのストレスを解消する為に、例えばお酒を飲んだり、ゴルフに行ったり、カラオケに行ったりするのですが、その程度で解消できるストレスは本当のストレスとは言いません。

本来、仕事で受けた“ストレス”は仕事で解消する他に方法はありません。別の事をやって解消するのではなく、“ストレス”を受けたものと同じもので解決する事ができると、やっている事が楽しくなってきます。楽しくなると“やる気”が出てきます。それに加え、リーダーが率先垂範することが大事です。

会社で例えると「朝早く出勤しなさい」と社長が言ったとしても、社長が遅刻したり、欠勤したりすると他の社員は絶対に言う事を聞きません。誰よりも先ず社長が手本を示し、社員に動機づけを行う事が大事になってきます。人間には大きく分けて3つのタイプがあります。第一は“自ら燃える人間”、第二は“他人が燃えたら自分も燃えられる人間”、第三は“全く燃えない人間”です。

例えば100人の組織があったとすれば、第一のタイプは3人、第二のタイプは80人、第三のタイプは17人くらいの比率になると考えています。第一のタイプ



はいわばリーダーやサブリーダーといった指導者です、その3人が自ら燃えて、第二のタイプの人に火をつけていく事で、組織を強くする事が出来ます。

その他に企業には競争原理を働かせないといけません。

例えば花屋だと、ライバル店が10時に開店するのなら、自分の店は9時に開店するといった様に、ライバル店がしない様な、独自性を考え実行していく事が非常に大事になります。

福永 青年会議所には色々な業種の経営者がいますが、これからの次代を担う経営者には、何が大切だと思いますか。

永守 リーダーが知的ハードワーキングを率先することです。これからはリーダーシップの時代です。

社員は皆、リーダーを見て仕事をしています。昔と違って、今は会社の数が多いので、ハングリー精神のない会社は次々に淘汰されていきます。特に今はグローバルな社会になってきているので、会社が潰れないようにするにはリーダーがグローバルな視点を持って仕事に対する強い姿勢を社員に示し、会社全体を盛り上げていく必要があります。

福永 能力は必要ですか。

永守 能力は必要ありません。経営者が夢を語って、それに賛同してついてきてくれる社員がいれば競争社会で勝ち残っていく事は可能です。

それに、一般的には一流大学の出身者や博士号や色々な資格を持った人が一流の人材だと思われていますが、いわゆる一流の能力を持った人材がたくさんいればいい仕事が出来るとは限りませんし、会社が大きくなるとも限りません。

そもそも、中小企業に一流の人材は先ず来ません。来ると期待しないほうがいいし、一流の人材がいなから、自分の会社が良くないという考えも間違っています。

人間の能力の差はせいぜい2~3倍、多くて5倍程度です。しかしやる気や意識の差は100倍違います。

能力の高い人を採用するというよりも、能力の有無は関係なしに、経営者は社員の意識を高めることに全力をあげる事がとても大事になってきます。

当社では創業間もない頃、「大声試験」、「早飯試験」、「マラソン試験」といった一般的に見たらユニークな採用方法で意識の高い人材を見つけ出す事に尽力したり、学校の成績よりも出席率の高い人を採用して、その人達と共に自分が先頭に立って物事に

立ち向かって行く事で、社員の意識を高めて会社を成長させてきました。

福永 飯塚には御社の子会社である日本電産パワーモーターがあります。飯塚市では企業誘致等、雇用を増やす為に色々な対策をしていますが、中々実現出来ていません。

出来れば、飯塚の日本電産パワーモーターの従業員を、今の500人から倍の1,000人に増やしていただけではないでしょうか。

永守 それは非常に大切なことで、私は企業にとっての一番の社会貢献は“雇用の創出”だと考えています。

当社には3つの経営理念があって、一番は“雇用の創出”、2番は“世の中に必要なものを作る”、3番は“世界一の製品をつくる”という3つです。

今後、当社は国内のみならず海外の雇用をさらに増やしていく予定です。海外に工場をつくと国内が空洞化すると思われがちですが、今後大事なことは、海外で生産して稼いだお金で、日本に投資をする事です。そういう方法で国内に技術開発センターを建設して、国内での雇用を増やしていく計画を持っています。

これからは、海外で生産し、国内で開発をすることで、グローバルな形で国際競争を勝ち抜き、全体的に雇用を増やしていきます。

福永 飯塚は周辺に自動車の工場がたくさんあるのですが、今後飯塚に自動車向けの技術開発センターを建設する計画はありますか。

永守 その可能性はあります。今から国内で雇用を増やす方法は技術開発センターを建設することです。

そして雇用を増やす為には“自主性があって、仕事に対する意欲の強い人材”を伸ばしていく事を重視しないと雇用は増えません。それに法人税率の見直しや労働規制の緩和等、国際競争に負けない為には何を大事にすべきか、官民一体となって対策を考えないと、国内で雇用を増やすことは非常に難しいでしょう。

例えば、東南アジア等の発展途上国に行って工場を建てる際、現地の政治家に「あなたの国は、当社に何を求めていますか？」と聞くと、投資金額よりも雇用を増やして欲しいと訴えてきます。

それだけ雇用というのは、国にとって大事だという事です。

福永 今まで、御社が成長してきた過程で、急成長するきっかけの様なものはありますか。

永守 何もありません。とにかく一生懸命働く事です。経営トップが朝一番に会社に来て、最後まで会社で仕事をする姿勢が大事です。また、3Q6S(良い社員、良

い会社、良い製品=3Q、整理 整頓 清掃 清潔 作法 躰=6S)の徹底をする、そして社員の出勤率を上げる、この3つをきちんとやっていくと、会社が非常に強い力を持って成長していきます。

福永 永守社長が考える、今後成長していく市場はどのような分野だと思いますか。

永守 キーワードは4つあります。それは「省エネ」「エコロジー」「軽薄短小」「ハーフプライス」です。

「省エネ」「エコロジー」は例えばLED電球や電気自動車等の地球環境に優しい製品。「軽薄短小」は小さくて省資源の製品。そして「ハーフプライス」。これからは新興国での市場の成長が有望になってくるので、現在の半分の値段で購入できる製品が求められる時代になってくるでしょう。

そして今後は“葬儀型ビジネス”になってくると思います。いわゆる“結婚型ビジネス”とは、前もって色々な準備や下調べの出来る、時間に余裕のあるビジネススタイルで、それとは反対に“葬儀型ビジネス”とは時間が無く、突発的に何か起きて、素早い対応をしないといけない、即ち、短時間で物事を処理していく能力が企業に求められる時代になってくるでしょう。

福永 今からは内需を求めるとも、日本の技術を海外で生かして、世界に日本、特に福岡を諸外国に売り込もうと思っています。そして世界規模でヒト、モノ、カネの経営の3大要素をマネジメントしていく必要があると思いますが、その点についてはどうでしょうか。

永守 その通りです。今からは、間違いなくグローバルな時代に突入していきますので、日本国内だけで需要を伸ばそうとしても、中々難しいのが現状です。世界市場レベルで会社を大きくしていく事を考えないといけないでしょう。

福永 永守社長は“ひとづくり”と“ものづくり”のどちらに比重を置くべきだとお考えでしょうか。

永守 “ひとづくり”です。“ひとづくり”が出来たら、自然と“ものづくり”も出来る。“もの”は“ひと”が作っていますから。企業にとって、いかに



いい人材を育てるかがポイントになってきます。“五目飯”の具材で例えると、最初にご飯のほかに雑草(4流)、次にニンジン等の野菜(3流)、それから魚(2流)、そして最後に肉(1流)という順に豪華な具材が入っておいしくなる。しかし肉や魚がたくさん入り過ぎると“五目飯”は不味くなり、企業でいうと大企業病になってしまいます。

1流の人材ばかりの会社になると官僚的になってしまっ、何を決定するにも合議制になってしまい企業スピードが落ちてしまいます。能力の高い人は先が読めてしまうので挑戦することを避けてしまう傾向が強くなり成長が止まってしまうのです。

これからは、企業のトップには“強いリーダーシップ”が必要になってきます。優秀な社員がたくさんいる企業でも、“強いリーダーシップ”のない企業は“築城3年、落城3日”の言葉のように、一気に業績が悪化して倒産してしまう危険性があります。

オーケストラの指揮者で例えると、一流の指揮者だと普通の楽団でも注意するポイントが良く分かっているから、上手に演奏できる。ところが指揮者が3流だと一流の楽団を使ってもポイントが分からないから、良い演奏にはなりません。

会社の業績というのは、トップに8割、残りの社員に2割の責任があります。私自身がトップに立ち再建に成功した事がそれを証明しています。当社がいままで買収してきたすべての会社はリストラを一切していません。トップ自らが掃除をしたり、率先して仕事をする事で、社員の意識が変わり、今まで何年も赤字だった会社がすぐに黒字になるのです。

どんな事でもすぐ行動を起こすという事は、意識が高い証拠です。すぐに仕事をすれば、納期を半分に出来る。納期が半分になるという事は、コストも半分になるということです。

いかなる状況でも経営者は社員の意識を高める事をより重視しなければなりません。

福 永 これから、日本電産として、経営者の教育というのはいっていきますか。

永 守 私から次の人に経営者が変わったら、今の様にはいかないでしょう。

今は私が創業者だから一人で色々決定することができますが、これからは素早い合議の出来る経営陣を作る教育が大事でしょう。これからの若い経営者には大きな夢をもって欲しいですね。いわゆる“大ボラ”ですね、“大ボラ”を吹くくらいの若者がたくさん日本にいれば、日本はまだまだ活気付くでしょう。会社に入っても「課長」を目標にするのではなく「社長」を目標にして頑張ってもらいたいです。

福 永 日本電産はどのような人材を求めていますか。

永 守 当社で働きたい人だけを必要としています。当社の

内定式で私は学生に対して、日本電産に入社して「成長したい」、「一緒に世界一を目指したい」という人しか要らないと言います。他の会社と天秤にかけたり、内定数を増やして喜んだり、安定を求める人材は当社は求めています。

“やる気”のある人材しか必要としていません。能力は二の次です。

福 永 社員の意識を変えるポイントは何ですか。

永 守 常に社員に関心を持つ事です。廊下ですれ違う時に、黙ってすれ違うのではなく、どんな事でも良いから一言声を掛ける事が大事です。そして思い切り叱る事です。叱るという事は社員に関心があるから叱ることが出来ます。関心が無かったら叱れないでしょう。そして、叱られた人が一人前だという企業風土を作っておけば、社員は叱られる喜びを知る、そうするとその社員が非常に強い意識を持った強い人材に育っていきます。

福 永 最後に飯塚青年会議所メンバーに一言お願いします。

永 守 とにかく思い切り働きなさい。人は人を裏切るし、国も国民を裏切る事があります。しかし“努力”だけは絶対に人を裏切りません。私が会社を起業する時に母親から「人の倍働く事ができるか?」と言われました、私はそれを実践したから今の日本電産があると思っています。例えば社長だと、給料は高いけれど、責任は重いという様に、人間には良い事と悪い事は常に平等に与えられていると思います。

そして人は35歳までで決まると思っています。これはマラソンで例えたら折り返し地点で、最初に差を付けられたら後半で抜き返す事が中々難しい、後で抜き返そうと思えば前半の2~5倍の労力が必要です、だから35歳までにどれだけ努力出来たかが大事になってきます。

努力をすれば、結果は必ず付いてきます。そうすれば家族も先祖も大事に出来ます。

皆さん、頑張って下さい!!





永守重信 (ながもり しげのぶ)

1944年8月28日、京都府生まれ。

1967年3月職業訓練大学校電気科卒業。

1973年7月、28歳で日本電産株式会社を設立し代表取締役社長に就任。

1988年、創業わずか15年目にして大阪証券取引所2部ならびに京都証券取引所に上場させ、その後1998年には東京証券取引所1部上場及び大阪証券取引所1部に昇格させた。さらに2001年9月にはニューヨーク証券取引所に上場。1980年後半からは、駆動技術に特化した事業の強化・拡大に向け、M&Aをはじめ積極的な海外への事業展開を進めている。

〔経営方針〕

優れた技術を持ちながら、経営不振に陥った企業を次々と買収し、子会社化して再建させる、友好的 M&A の名手として知られる。個人で筆頭株主となり、会長にも就任してそれらの企業を立て直す。

「情熱、熱意、執念」、「知的ハードワーキング」、「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」の3つを経営哲学としている。また、日本電産創業時に「同族会社にしない」、「下請けはやらない」、「世界に君臨する企業を目指す」という理念を掲げており、それを実践している。

インタビューなどでは「仕事が一番楽しい」、「月曜日の朝が一番ワクワクする」と答え、年間365日、元日の午前を除いて働くという。これは「他人の2倍働いて成功しないことはない、倍働け」「絶対に楽しんでもうけたらあかん」といった母親の教えによる。

人材育成方法も独特で、「100回叱って1回褒める」、「絶えず社員に関心を持つ」といった観点から、普段は相手が震え上がる程、声を荒げる事があつたかと思えば、昇給時や賞与の支給の時には褒めちぎりの文章を書き、常に社員に対し強い関心を持つ事によって社員全員で会社を盛り上げて行く、いわば「一人の百歩より、百人の一步」を心情とした人材育成方法によって会社を成長させてきた。



2010年度活動報告

DRIVE

～地域の夢と未来に向かって前進～

地域まつり活性化委員会 委員長 桑野 慎吾

本年度、地域まつり活性化委員会は飯塚山笠振興会に出向し年間を通して活動して参りました。今年、飯塚山笠は復活40周年を迎え周年事業として「走る飾り山」を作成しました。走る飾り山は最長7Mまで達する飾り山でした。この事は各メディアにも大々的に取り上げられ飯塚山笠がより一層、周知されたと確信しています。青年会議所メンバーが多数、ご協力頂き大変ありがとうございました。さて、山笠担当委員会は諸団体と交流が出来る委員会です。山笠振興会に参加することにより私達はさまざまな情報を取り入れることが出来ました。また、伝統を引き継ぐ委員会でもあります。そこで私達、地域まつり活性化委員会メンバーは今一度、先人達が山笠を立ち上げられた時の志の原点に戻り、今後の青年会議所の事業等に活かしていきます。最後に地域まつり活性化委員会をご支援、ご協力をして頂きました方々にこの場を借りて御礼申し上げます。また、山笠担当委員会を次年度も一層のご支援賜りますよう宜しくお願い致します。



地域開発プロジェクト委員会 委員長 清水 幸浩

私達が住むこの地域を全国に発信出来るお菓子の商品は沢山あります。しかし、お菓子以外では全国に発信出来る商品が、この地域にあまり多くないと感じます。そこで私達、地域開発プロジェクト委員会では、全国に飯塚をアピールする事を目標に掲げ、焼き小籠包を開発しました。この商品には、生地には颯田ウコン、具にはホルモンが使用されています。この商品を全国に発信する為には、まずは地元に着地させる必要がありました。その為に我々メンバーで1店舗でも多くの飲食店様に賛同してもらい販売して戴く事、そして一人でも多くの方々に商品を知って戴く事が全国へ発信する為の第一歩だと考えました。現在17店舗の飲食店で、この商品を食べる事が出来ます。協力店様には私達が商品開発した物を実際に販売して戴く事により、行動は地域を活性化出来る一つの方法だという事を実感し体験して頂きました。まだスタートして間も無い商品ですので、認知度は高くありませんが私達は、この商品が梅ヶ枝餅で知られる太宰府市のように、地元に着地し長く愛される商品になっていく事と考えます。5年後、10年後にまた地域開発プロジェクト委員会メンバー一同で集まり、この商品を食べながら一緒にお酒を飲む日を楽しみにしています。



LOM支援特別室委員会 委員長 國米 征吾

LOM支援特別室のLOMとは、世界各地域に点在するそれぞれの地域の青年会議所を指します。我々の所属する(社)飯塚青年会議所もその中のひとつです。2010年度(社)飯塚青年会議所には、当委員会の他に1つの室と8つの委員会があり、それぞれの委員会には7名前後のメンバーが存在します。委員会ごとには役割があり、まちづくりや地域の活性化のため

にそれぞれの委員会が1年を通じて活動しています。またその委員会やメンバーをまとめる役割として、理事長を筆頭に10名ほどの執行部が組織され、執行部にもそれぞれの役割が与えられます。

その中で当特別室に与えられた役割は、LOM全体のバックアップでした。当特別室は3名で構成され、各々がそれぞれの委員会に何が必要か、また今LOMにとって何が出来るかを考えて活動して参りました。結果サポートにもならなかったかもしれませんが、陰ながら何かしらの支援は出来たのではないかと考えます。

またLOMを支援するにおいて、会員拡大は欠かせない活動です。2010年度は「広報ONE・ONE運動」と題しまして、会員一人ひとりが呼び掛けをし会員拡大を目指しましたが、4名の会員を獲得するに留まりました。しかし4名とも素晴らしい人材が入会してくれたと自負致します。今後(社)飯塚青年会議所が更なる発展をし、地域に貢献できる団体を目指す為にも、皆様のご協力とご参加をよろしくお願い致します。

例会委員会

委員長 藤原 昌直



本年度、例会委員会ではLOMメンバーがそれぞれ「何のために」「誰のために」JC運動を行っていくのかという事について、自分なりの答えを導き出して行けるように毎月様々なテーマを掲げ一年間例会を運営して参りました。

この2つの漠然とした目標に向かって委員会メンバー全員で切磋琢磨しそれぞれが、自然に自分の役割を理解し、積極的に行動(DRIVE)出来た結果、LOM全体に気づきやきっかけを与えることが出来たように感じました。

本年最後の例会(オープン例会)、11月例会「懸命に生きる人々～日本人こそアジアの人々から学んでほしい」では、一年間の集大成として強いメッセージを込め開催いたしました。来場された皆様にも非常に内容、テーマに共感を持って頂くことができ、本当にやってよかったと感じました。

委員長所感といたしまして、例会という事業は自由な角度から一つの目標を見ることで様々なテーマが見つけれられ、一度では達成できないことも一年間という長いスパンで行うことでより大きな成果を上げることが出来る、とてもやりがいのある委員会であったと再認識することが出来ました。

最後になりますが、本年度の全ての例会におきまして関わることの出来た全ての方々に感謝申し上げまして委員会報告に代えさせていただきます。ありがとうございました。

地域ディベロップメント委員会 委員長 藤木 英恵



今年度私たち地域ディベロップメント委員会は、まちの活性化を目指して一年間活動してまいりました。もっとこのまちを明るく元気にしたい。そのためにたくさんの人たちが行ってみたいと思うまちにしたい。そこで私たちが描いた未来図が「お菓子のまち」という姿です。「自分たちのまちには何の魅力もない？」そんなことはありません。知らないだけなのです。幸い私たちは今年自分たちのふるさとについていろんなことを学べる機会をいただけて分かったことは、わたしたちのふるさは間違いなく愛すべき魅力あるふるさとだということです。その一面である「お菓子のまち」を多くの人たちに知ってもらうことが私たちの担いであり、飯塚青年会議所の創立記念やお菓子事業に於いて発信してまいりました。まちのイメージを変えることは今年一年で出来ることではないことはわかっています。何年何十年と継続することによって少しずつ変わっていくものだと思います。今回私たちが成しえたことは僅かなことかもしれませんが、その僅かなことの積み重ねがあつて少しずつ変わっていくものと考えます。最後になりますが、僅かな一歩が実りある確かな一歩であることを祈りつつ、今年一年間の活動に於いてお力添えいただいたすべての方に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

地域農業畜産開発委員会 委員長 戸田 徹

本年度、「輝け!!このまちの農畜産業」を合言葉に、生産者の意識改革をテーマに意識改革のきっかけがどこまで達成できるのかを委員会メンバーと話し合い活動してきました。農業を知らなければ知るほど手法ばかり目が行き周りが見えない状況でした。しかし、今回生産者と共に活動していく中で思いを共有でき、意識が前向きになっていく生産者を見て今回の取組みは間違いではなかったと思います。モデルケースとして「飯塚嘉もんバーガー」を企画・開発・販売して、地元の生産物とその生産者をこの地域の方々に幅広く知って頂くことが出来ました。また、意識改革に関しても我々と共に1年間活動して参りました生産者の中から飯塚JCへ次年度入会される方も出てきました。本事業を通して今後の農畜産業に新しい可能性を示せたものと確信致します。しかし、この意識改革の輪を今後どう広げて行くかが課題となります。さらに生産者の中にも現状に何かしら不安を抱えていてもそれがすぐに行動に移るといった動機づけにはなっていません。本事業に興味はあっても静観している、といった方がまだまだ多数いました。

今後いかにこういう方々を巻き込んで、新たな農畜産業に発展させていくにはまだ時間と労力がかかります。市民・行政・生産者が一体となって取り組んでいくべき大きな課題であります。

最後に、今年1年内容を含めて玉村副理事長や外山副委員長、委員会メンバーには本当に迷惑をかけっぱなしで私の委員長としての力が足りなかったと反省しております。ただし、このことを今後の課題として、これからも頑張っていきます。最後に、力不足の部分も少なからずあったと思いますが委員会メンバー一同懸命に取り組んだ事業でした。その間、福永理事長以下多くの方から叱咤激励、アドバイスをいただき感謝しております。本当にありがとうございました。

地域きぎょう開発委員会 委員長 榎木 雅人



子供の頃、小川を覗くと沢山いたはずのメダカも、現在ではほとんど目にする事が無くなってしまいました。メダカは「絶滅危惧II類(せつめつきぐにるい)」に指定され希少動物となっております。誰でも簡単に飼育することができ、孵化から産卵まで50日程度で成長するメダカの特徴を生かし、高付加価値のついた「めずらしいめだか」の繁殖を調査致しました。この希少動物を大量生産させる為には、土地が必要不可欠であり、この地域には、荒地や炭鉱跡のやせた土地、休耕田などが沢山放置されております。これらの土地を有効活用した新しいブランド商品の生産というモデルケースを確立し、「生産」から「販売」を調査することにより起業の可能性を調査致しました。

今回、70匹程度のメダカから3,000匹程度にまで繁殖する事に成功したが、予測不能な事態が発生したのも事実です。しかし、メダカ達の孵化はそれらの悪影響をものともせず繰り返され、今後の可能性に期待が持てました。また、保育園生の見学会の際には、子供たちだけではなく先生の方々からも笑顔がこぼれ、メダカという生物の癒し効果を確認出来ました。ご家庭で飼育すれば、コミュニケーションツールとしての可能性も垣間見る事が出来ました。

地域公益推進特別室 室長 江藤 晃輔



2010年度当室では、新法施行に伴う社団法人格移行、及び認定基準達成の為の制度改革、総会を含む総務所業務、そして我々(社)飯塚青年会議所の活動エリアである、飯塚市・嘉麻市・桂川町における、ローカルマニフェスト型公開討論会を行いました。

特にローカルマニフェスト型公開討論会においては、活動エリアの首長選挙が2010年度に全て重なっておりましたので、公正・公平・中立を強く意識して、地縁・血縁・掛け声だけで無く、立候補予定者の方々が、4年間のまちのビジョンを示して頂き、有権者が政治の傍観者にならず自らが参加し、「ともに問題に取り組んで

いけるような人物を選ぶ責任がある」ということを自覚してもらい、将来的には住民参画型のまちづくりが行われていくことを、心から願い事業を実施しました。

このローカルマニフェスト型公開討論会には、2市1町の立候補予定者の方々7名全員がご参加頂き、ローカルマニフェストを書いて頂きました。又、討論会を開催するにあたり、各行政・自治会長・行政区長・桂川町商工会の皆様にも、多大なるご支援ご協力を頂きました。

今後は、ローカルマニフェストの検証が必要ですが、公正・公平・中立という事を強く念頭におき、住民参画型のまちづくりに繋げていく為のプロセスの一環であるという大前提にして、事業の実施を行う必要が有ると強く感じます。

末尾になりますが、ローカルマニフェスト型公開討論会開催にあたり、多大なるご支援・ご協力を頂いた全ての方々に深く感謝致します。

地域プロデュース委員会 委員長 木村 幸道



地域プロデュース委員会の活動には、ホームページ管理・理事長対談・灯明事業と、3つの重要な担いがあり、1年間を通じて様々な経験を積み、次世代のリーダー足り得る土台作りができるようにと活動いたしました。中でも、日本のトップ企業の創業者であり、人材育成でマスコミにも注目されて

いる経営者、日本電産社長永守重信氏との理事長対談では経営のアドバイスも頂き、非常に有意義なものとなりました。

また、10月16日に行った灯塚まつり2010～願い～では、新聞各社、広報誌、テレビニュースなど様々取り上げられ、地元企業・学生・地域住民の方々に灯明を並べて頂き、過去最高の来場者数となりました。(5000人以上来場KBCニュース調べ)地域の方々には、遠賀川に灯したきれいな灯明に感動して頂き、地域の絆を感じて頂ける事業として大成功致しました。これもすべて、当委員会メンバー一人ひとりの努力の成果であり、ご協力頂いたLOMメンバーの御蔭と感謝申し上げます。当委員会で行った1年間の活動が来年度以降に繋がり、これからの地域づくり・人材育成の一助となればと願います。ご協力ありがとうございました。

地域国際交流委員会 委員長 福澤 文聰



私達の委員会では、この地域在住の様々な国の人々と交流し地域発展の為情報交換が出来る様に1年間活動しました。

前半は姉妹提携を結んでいる台東国際青年商会更なる友情を深める為に、台東(台湾)訪問を企画、進める中で近畿大学の台湾人留学生の方々と交流し台湾の

現状や飯塚に印象などを聞き、挨拶、自己紹介程度ですが中国語教室開催し、6月4日～6日の日程で台東に13名で訪問し友情を深め、今回は台東国際青年商会メンバーの会社訪問させて頂き日本との違いなど情報交換してきました。また飯塚を代表する祭り飯塚山笠を発信する為に長半纏デザインし台東国際青年商会に友好記念品として寄贈致しました。

後半は、飯塚国際推進協議会にご協力頂き、九州工業大学留学生会(50名位)を中心に世界で一番ポピュラーなスポーツを通じて交流を深めて、地域が発展する為の情報交換や今後の事業に繋げて頂く為に、グローバルフットサル大会を企画し、同日食を通して異文化に興味を持って頂く為に、留学生の奥様に講師お願いしお国自慢料理教室を開催しました。

本年度、国際交流活動を行っていく中で、気持ちの変化がありました。異文化交流する事で理解し学べる機会を得る事が出来ます。今後、何らかの形で事業・地域発展の一助に繋がる事を願い活動報告とさせていただきます。

2010年度 新入会員からの感想



古賀 浩一

私がJCに入る前に思っていたイメージがあります。それはJCイコール飲み事というイメージが付きまわっていました。しかし、いざ入会してみると、真面目な会議や例会ばかりでJCイコール飲み事というイメージは払拭されました。また、暖かく指導して下さる先輩方ばかりで、これから長いJC活動を行う自信が湧いてきました。JCを通して自分が成長できるようなさまざまな活動をこれからもやって行って行けたらと思います。



齊藤 壮史

飯塚青年会議所に入会してから自分なりに学び感じた事は、地域活性化を目標としたさまざまなイベントを企画・運営する上でメンバー同士活発な意見交換があり、お互いの意見を尊重し合い信頼して事業を行っていく。なかなか経験できない様な体験ができました。入会当初は馴染めるか不安もありましたが、諸先輩方の皆さんには色んな面でサポートして下さい、すぐに打ち解けられました。今では、ここで出会ったメンバーは自分自身かけがえない存在となっています。今後、青年会議所の活動を通してメンバー力を合わせ、地域の方々と一緒に活気ある町づくりを目指していきます。



武本 一利

一年目わからないことだらけの武本です。私は、(社)飯塚青年会議所の新メンバーとなれた事を誇りに思い、今後、斬新なアイデアや、企画などメンバーの皆さんと協力して楽しく活動して行きたいと思っています。そして、この町が少しでも笑顔の多い町にしていきたいです。その為にも、いつも笑っていようと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。



村岡 智弘

私は地元が飯塚ではなく、飯塚の企業に就職し、縁あって取引先の経営者のお嬢さんと結婚して、現在経営の勉強をさせてもらっています。今回飯塚青年会議所に誘って頂き、早速委員会に入り、事業を進めていく中で色々な考えがあり、自分の考えが絶対ではなく、様々な答がある事を学び、まだまだ自分が未熟であると感じました。今後は同年代の志の高い方々と触れ合う事で自分自身の成長に繋げていきます。

社団法人飯塚青年会議所

会員募集

青年会議所(JC)は“明るく豊かな社会”の実現を理想とし、時代の担い手たる責任感を持った20歳から40歳までの、指導者たらんとする青年の団体です。私たちは現在、国内709余りの都市に4万人余りの会員を、全世界128カ国地域に17万4千人余りの会員を擁しています。青年会議所の事業目的は“社会と人間の開発”です。私たちは市民社会の一員として、市民の共感を求めて社会開発計画に基づいた活動を行い、「自由」を基調とした民主的な指導能力の開発を推し進めています。

青年会議所は20歳から40歳までの情熱ある青年の団体です。

(社)飯塚青年会議所は、あなたの力を求めています！

私は、青年会議所について聞かれた時「青年会議所はまちづくりとひとづくりを行う団体です」と答えています。青年会議所はこのように考えています。家庭・学校・企業等、これらは全て「ひと」によって成長して行きます。そして、私達の生活している「まち」も「ひと」によって構成されています。青年会議所は40才までの団体であり、そのわずかな時間の中で「まちづくり」を行うことは大変難しいことです。しかし、いろんな事を経験し、体験することで「私」という「ひとづくり」を行い、「豊かな考え」のできる「ひと」に成長すれば、それが「豊かなまちづくり」につながるのです。青年会議所の活動は「もの」をつくる町づくりではなく、「ひと」をつくる町づくりです。青年会議所とは40才までにやり遂げる団体ではなく、入口なのです。

●対象者● 飯塚市、嘉麻市、桂川町に住所または勤務先を有する20才から37才までの健全な方であれば男女を問いません。詳しくは下記飯塚青年会議所事務局までお問い合わせ下さい。

地域プロデュース委員会

■ 副理事長/下川 哲也 ■ 委員長/木村 幸道 ■ 副委員長/重 清康
■ 委員/江藤 裕仁・岡村 智之・木下 太・重松 将貴・堤 考史・中川 民志

(社)飯塚青年会議所

〒820-0017 福岡県飯塚市菰田西3丁目18-11 TEL 0948-23-0292 FAX 0948-24-3471
■ E-mail info@iizuka-jc.com ■ URL http://www.iizuka-jc.com/